

南の丘学園袋井市立袋井南中学校 第3回学校運営協議会【記録】

1 学校運営協議会長あいさつ

- コロナ禍あけの今年こそ、明るい年にと思いきや元旦の地震に衝撃を受けた。被災地の1日も早い復興を願っている。
- さて、本日の会合のように、人と人が直接対面しての関わりを大切にしていきたい。
- 思い起こせば、私自身も20周年PTA会長だった。本年度も50周年に向けて協力をいただきながら進めていきたい。辰年なので、袋井南中も新たなことに挑戦して成功を収められるようにしたい。

2 校長あいさつ

- 保護者や地域の皆様の御支援や御協力のおかげで、本校はここまでやってこられた。
- 学校として、変わらなければいけないこと、変わってはいけないことを、保護者や地域の皆様と一緒に考えていきたい。本日は、学校の教育活動への御意見や期待をいただきたい。

3 学校経営状況について

- 来年度は50周年という節目の年。「100周年への夢を描く」を目指していきたい
- 不登校生徒は昨年度と同程度であるが、1年生で新規不登校の発生率が減少するとともに、サポートルームやひまわりなどの校内外の適応支援教室へ通える生徒が増えてきている。
- 問題行動は、ネットトラブルが増加している。1年生を中心に飲酒や喫煙、異髪や異装が見られる。個に応じた対応や指導を継続的に行っている。
- SNS上のトラブルは、学校は相談には乗るが調査や解決は難しいことを周知している。
- タブレットによる日記帳アプリが機能している。子供たちの安心や安全、自己調整力の育成につながっている。学級担任が不登校生徒とつながる情報ツールとしても機能している。
- 1年生を中心に、年度当初に交通事故が4件発生した。
- 今年度は地域からの交通に関する苦情が多かった。特に、月曜日や水曜日などで一斉下校時の混雑に関するものが一番多かった。
- 教職員の勤務状況は、超過勤務人数が激減した。健康に留意をして勤務できている。パパ育児取得者も出てきた。一層、教職員の休暇への意識を高めていきたい。
- 生徒たちの主体性を育成するために、「学校が楽しい」「主体的な学習の推進」「よく分かる授業」「生徒のユニット活動」などに取り組んでいる。次年度は、さらに主体的に学ぶことができるようにしていく。集団に関わる意識が高まり、生徒たちは学園で作成したモザイクアートなどで自信をつけた。現在も、小中のリーダーズミーティングで次の仕掛けを企画している。
- 3回のSouth Dreamで、子供たちの将来の夢や目標に生かせる話をさせていただいた。夢や目標への意識につながっていると感じられる。
- 地域から、特に高南や袋井南コミュニティセンターから、様々な声を掛けていただくことが多く、生徒たちも地域の活動に主体的に参加し、大変喜んでいる。
- 緑化推進事業による植樹、能登半島地震募金、家庭科和装着付け支援等、CSDを中心に地域などのサポートをいただきながら、創造的な取組がたくさんできた。
- 次年度から新制服がスタートする。カバンはメーカーの在庫の関係もあり、子供の意見を中心にして、令和6年度の中で検討をしていく予定である（小学生や中学校の保護者や教職員にもそれぞれアンケートを実施していく）。

【御質問・御意見】

- 委員A:現在の南中の不登校状況は、他校と比べてどうなのか教えていただきたい。1年生で新規不登校発生が減少している理由を教えていただきたい。
- 回答:本校の特徴は、完全不登校ではなく、ちょっとしたきっかけで休んでしまう傾向がある。「復帰」は、不登校報告はしているが教室に復帰している生徒数。全体として、復帰傾向の生徒が増加している。それでも1年生で不登校に計上される人数は微増している。中1の1~2学期は部活動や宿題などで、小学校と比べて、時間や体力的な負担が急激に増加しやすい。本校では今年度、部活動の終了時刻を通年で16:30にし、日課を前半に詰めて短縮し、放課後にゆとりを持たせた。子供たちにとって、学校生活の負担を軽くしたことが、不登校の予防につながっているのではないか。
- 委員B:先生方の御指導ありがとうございます。入学当初から、1年生に金髪などの異髪・異装が目立つ生徒がいたことが保護者でも話題になっている。学校では本人や保護者にどのような指導をし、保護者がどのように応えているのか教えていただきたい。
- 回答:金髪のような色になっている状態やピアスを付けたりしている状況を良とはしていない。本人に対して繰り返し、改善するよう指導をしている。また保護者に対しても、子供への指導に協力をお願いしている。一方で、頭髪や服装に関する校則違反を理由にして、学校として教育活動から完全にシャットアウトするのは、人権の面からも難しい。粘り強く、繰り返し生徒への指導に関わることで改善を目指している。もちろん、犯罪行為や暴言、暴力などがあった場合は、警察や教育委員会とも連携して、毅然とした対応をしていく予定である。
- 委員C:交通事故の場所や内容を教えていただきたい。
- 回答:下石野の近辺、教職員が見てもそれほど大きな段差だと思えない継ぎ目であっても、自転車の操作に慣れない1年生にとっては事故が起こっている。また、坂道は押して移動するように指導しているが、スピードが出てしまっただけで転倒事故につながった場合もあった。

4 来年度の学校経営について

- 学園としてのつながりを大切にしながら、主体性を育てていきたい。次年度は、「ウェルビーイングの向上」を核に経営していきたい。
- そのために4つのキーワード「やってみよう」「なんとかなる」「ありのまま」「ありがとう」を視点に、教育活動を実施していきたい。具体的には、年間を4節に分けて焦点化して取り組む、シーズン(Season)制を計画している。
- 失敗することを恐れず失敗はあっても当たり前で様々なことにチャレンジできるようにしたい。さらに多様性への支援を充実させたい。自分らしさを大切にしたい生活ができる学校にしたい。生徒にとっても保護者にとっても地域にとっても教職員にとっても「四方よし」の学校にしたい。
- 50周年に関わる取組の充実をしていきたい。「50周年~の行事」「50周年学校施設設備環境の充実」などを考えている。

5 来年度の教育課程などについて

- 委員D:働き方改革の視点からも部活動の地域移行についての状況、課題、地域へのお願いを教えていただきたい。地域クラブを作って活動していこうとしている近隣市町にはあるが、袋井市はどうなっているか教えていただきたい。仕方が無いが、地域のチームになった場合は袋井南中学校の名前で出られなくなるのが、個人的には寂しいと感じるがいかがか。
- 学校の回答:外部指導者は、テニス、剣道、サッカーの3部活が入っている。吹奏楽部も外部講師が指導をしている。部活動の地域移行は、袋井市教育委員会の「魅力ある部活動推進室」が進めている内容である。まずは休日の部活動を指導する地域人材を充実させ、段階的に地域に移行していく予定である。今のところ、袋井市では、中学校から数年以内に部活動

令和6年2月22日（木）@図書室

がなくなることはない。少なくとも令和8年度までは現状のまま部活動は残り続ける。休日は、地域指導者をお願いする部活動の割合が多くなっていくと予想する。今後も生徒たちが持続可能な部活動にするために、地域の方からの一層の支援をお願いしたい。部活動だけではなく、子供たちの受け皿、授業へのサポートもしていただけるとありがたい。設置部活動が少ない種目や内容は、複数校で合同部活動も必要だと考えられる。

□委員F: 今回の議事録を協議員のみなさんに送信していただきたい。

□学校の回答: 何らかの形でお渡します。

6 熟議によって出された、南の丘学園の課題と今後への提言

【A グループ】

△課題	△不登校の問題、不登校への支援を充実させるためにはサポートルームを充実させたい。生き生きと表現できる生徒の育成、学校としてやることは多いが、教職員を含め学校に人が少ない。地域人材も不足している。少子化に伴い、学校の規模が縮小していったときに、学校の機能をどう維持していくことができるか。施設の老朽化も大きな課題だ。
◎提言	◎サポートルームの充実のために、もっと地域の人材が多く関わるとよい。地域として、小中が一貫校になると良い。それをきっかけにして、地域に充実した学校施設を創りたい。体育館だけでなく学校図書館なども地域住民が活用できるようにできたらいい。高校や専門学校、大学との積極的な交流を推進したい、学校に関わったりサポートしたりする人を増やす。

【B グループ】

△課題	△50年後の世界は、どうなっているのかが話題になった。人口減少による学校統廃合があるのではないかと。はたして50年後に地域に小中学校はあるのか。人口減少によって南の丘学園の小中学校は合併が必要になるのではないかと。もっと南中のよさや特色を出していく必要がある。南中が出す特色は、「国際化の対応」「人間関係の教育」であると考えている。
◎提言	◎体験活動を重視した、人としての教育が必要、人と接点がある教育活動を充実させたい。人の温かみを教えることが大切である。農業体験、動物を飼う、昆虫採集などの自然体験をする教育活動はできないか。

【C グループ】

△課題	△人口減少によって生徒や教員の減少、教員不足への対応、働き方改革を進めていく必要がある。生徒も教師も時間が不足している。マーチング事業、今後の部活動の地域移行が課題である。予算の確保の心配がある。ICTを活用していく、異髪異装等への対応は、学校家庭地域一帯となって実施していく必要がある。正規の教員がそもそも不足しているのではないかと。
◎提言	◎地域や家庭、学校が三位一体となって、様々な場面で自分の子供のつもりで子供たちを見守っていくことが大切。地域のボランティアをもっと増やして学校教育を充実させたい。ウェルビーイング構想を具現化してほしい。特に、なんとかないとありがたいといった、他者を認める視点を重視してほしい。あとは、教育予算の拡充を国や県、市にはお願いしたい。教員不足では良い教育はできない。